

こんにちは。文化財課の児玉です。今年も残りあとわずかとなりました。特に今年は、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録が決定するなど、あっという間の一年でした。今回は、「北海道・北東北の縄文遺跡群」における各遺跡説明の最終となります。

○史跡キウス周堤墓群（北海道千歳市）

【年代】紀元前1,200年頃（約3,200年前）

石狩低地帯をのぞむ緩やかな斜面に立地し、「周堤墓^{しゅうていぼ}」と呼ばれる高い土手を伴う縄文後期後半の大規模な共同墓地。周堤墓は、円形の堅穴を掘ってその外側に周堤を造り、内側に複数の墓を配置する独特な墓制であり、当時の高い精神性を示しています。

○史跡入江・高砂貝塚（高砂貝塚）（北海道洞爺湖町）

【年代】紀元前1,000年頃（約3,000年前）

内浦湾をのぞむ低地に立地し、貝塚を伴う縄文晩期前半を主体とする共同墓地。墓域からは、抜歯の痕跡のある人骨や胎児骨を伴う妊産婦の人骨のほか、土偶や土製品などが出土し、当時の葬送や精神文化を示しています。

○史跡御所野遺跡（岩手県一戸町）

【年代】紀元前2,500年～紀元前2,000年（約4,500～4,000年前）

馬淵川沿いの段丘上に立地する縄文中期の拠点集落。台地中央に墓や祭祀場である盛土があり、その周囲に居住域が広がっています。遺跡からは土器や石器、土偶、動物骨、堅果類などが出土し、河川流域における生業と精神文化を伝えています。

○史跡伊勢堂岱遺跡（秋田県北秋田市）

【年代】紀元前2,000年～紀元前1,700年（約4,000～3,700年前）

米代川近くの段丘上に立地し、環状列石を主体とする縄文後期前半の祭祀遺跡。見晴らしのよい段丘北西端に4つの環状列石が隣接して配置され、それらの周囲から土偶、動物形土製品、鐸形土製品など祭祀遺物が多量に出土しています。

○特別史跡大湯環状列石（秋田県鹿角市）

【年代】紀元前2,000年～紀元前1,500年（約4,000～3,500年前）

大湯川沿いの段丘上に立地し、環状列石を主体とする縄文後期の祭祀遺跡。万座と野中堂の2つの環状列石があり、河原石を組み合わせた配石遺構によって二重の円環が形成されています。周囲からは祭祀遺物が数多く出土しています。

今年も一年、皆様にはお世話になりました。お体には気をつけて、よい年をお迎えください。今年もありがとうございました。



大湯環状列石

（出典：JOMON ARCHIVES〈鹿角市教育委員会〉）